



国際交流員カロリンのコラム

下野市、ありがとう！
Vielen Dank Shimotsuke !
(ヴィーレン ダンク シモツケ)

寂しくてたまりませんが、私の国際交流員としての生活は8月で終わりました。皆さん、大変お世話になりました！
終わりを迎えると、始まりのことを思い出します。

私がどうして日本で国際交流員になりたかったか

大学を卒業したら日本で働きたいと、強く思っていました。日本の中でも東京ではなく地方で、日本の文化をじっくり観察する経験をしたかったので、地方の国際交流を応援する国際交流員という仕事はきっと私に合うと考えました。

日本の大学に留学したときは、大学の中や学生との関わり以外

の経験がなかなかできませんでした。東京でインターシップに参加したときは、ドイツ人が多い環境でした。今度は、日本人と日本語でたくさん話して、仕事をして、日常生活を送ることが、私の最大の目標でした。

下野市で国際交流員として働いた2年間、私は幅広い年



代、様々な出身、興味深い経験をもつ方々と交流することができました。国際交流員の仕事も、下野市も、私にぴったりでした！

新しい発見

私は過去に2回、日本で暮らした経験がありましたが、日本のアパートで一人暮らしをするのは今回が初めてで、新しく知ることが山ほどありました。

例えば、ガスコンロの使い方です。ドイツではIHがほとんどなので、ガスコンロは使ったことがありませんでした。

他には、キッチンやお風呂のお湯の温度を自分で設定できるということ。ドイツのアパートでは、大家さんが地下室でまとめて設定してくれるんです。

下野市に住み始めて最初の12月まで、私はぬるいお風呂に入っていました。自分では温度を変えられないと思い込んでいたからです。

でも、日本人の友達が私のアパートに泊まりに来たときに「カロリン、なんでこんなに冷たいの！」と悲鳴をあげたんです。私が「確かに冷たいけど、しょうがないでしょ！」と答えたら、彼女は何も言わずに私の腕を引っ張ってキッチンに連れ

て行って、温度の設定方法を教えてくれました。

その後の温かいお風呂は、最高でした！

仕事でも新しい経験があって、勉強になりました。

特に、日本語で電話に出たり、かけたりするのは難しいです。決まって使う言葉があるのに、よく間違えてしまいます。最初の頃、何度も「お電話、代わりました」ではなく「電話が変わりました！」と言ってしまうしました。

それから、受話器をガチャンと置くのではなく、まず手で静かに通話を切ってから受話器を置くという、日本のマナーを教えてもらいました。とても丁寧ですね！

ドイツ人は、そんなことは全然

気にしません。私は、静かな電話の切り方が気に入ったので、ドイツに帰っても実践したいです。

あと、市役所では「お疲れ様です」、「よろしくお願ひします」、「お世話になります」、「ただいま戻りました」といった挨拶がよく使われます。今まで日本語で仕事をしたことがなかった私は、こういう挨拶を知ってはいても実際に使ったことがなかったもので、慣れるまでに時間がかかりました。

初めの頃は頭が混乱して、仕事が終わって帰るときに「よろしくお願ひします！」と大きな声で言っていましたし、「ただいま戻りました」は早口言葉のようで、何回も失敗して本当に恥ずかしかったです。

今はもう慣れてきたのに、なぜか近所の人に「こんにちは」ではなく「お疲れ様です！」と言ってしまうことがあります。

どうして日本語はこんなに難しいんでしょうか？

